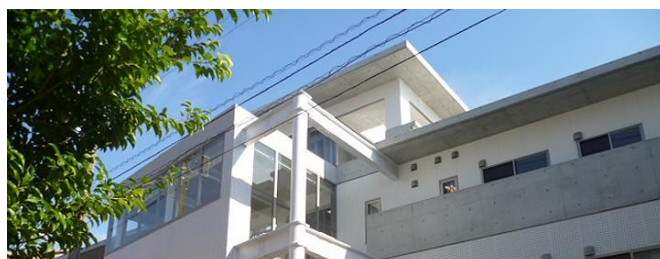


前途 ようよう

- z e n t o y o y o - VOL.6

高齢者介護業界のあの人この人に、これからの高齢者介護についての予測や展望をお聞きするインタビューコーナーです。

vol.6 株式会社日本ケアリンク システム支援部 部長 吉田俊夫 様



【日本ケアリンク・せらび杉並 / 東京都】



【吉田様】

1. 貴施設の沿革や特色について教えてください。

「その人らしい、一人ひとりの自由と個性を大切にする。」「尊厳と敬意を込めた、質の高いサービスを提供する。」「家族および地域社会とのふれ合いを通じ、心のケアを実践する。」を運営理念に掲げて、2000年日本ケアリンクは介護保険制度のスタートと同時に会社を創設いたしました。

創立以来、事業エリアを首都圏に限定し「せらび」のブランドで主に「グループホーム」、「介護付き有料老人ホーム」などの介護に不安のないお住まいのサービスをご提供しています。また、「デイサービス」や「ショートステイ」といったご自宅から通っていただけるケアサービスもご用意しています。

創業当初より掲げる「すばらしい人生を送ろう」を理念に掲げ、利用者様の住み慣れた地域でこれまでどおりの暮らしを続けていただけるように介護サービスの質にこだわり、顧客満足と職員満足を同時に達成する仕組みづくりに努めています。

2. 吉田様のご経歴や現在の役割を教えてください。

前職はメーカーでSEとしてプログラミングやシステム構築をメインに行っていました。また職務上webや紙面でのプロモーション・展示会の企画運営を担当していました。しかし親の介護問題に直面したことをきっかけに転職を決意しました。そんな時に株式会社日本ケアリンクと出会い、前職で経験してきたITの知識や経験がこれからの介護業界で活かせることを願い入職を決意しました。入職後はITの知識や技術で、「如何に生活が便利で楽になるか」をスタッフや利用者に実感してもらうため、ネットワーク・グループウェア・システム・セキュリティーなどの構築を行い、スタッフに対してその使用方法をレクチャーして浸透を図ってきました。現在も同業務を行いながら総務・人事の役割も担っています。

3. 高齢者ケアについて

最近、介護業界が変わったと思うことや貴施設での近年のお取り組みの特徴について教えてください。

業界の諸先輩方に比べて以前の事は分かっていないと思いますが、私たちの運営している施設ではもちろんのこと、介護業界全体が「利用者自身ができる事を奪わない自立支援型の介護」に変化していると思います。つまり、利用者が日常生活のなかで何をするのか、ご自身の意志で自由に選択できることが多くなってきていることです。

例えば、当施設では利用者介護スタッフが一緒にご飯を作ったりして、スタッフが人生の先輩から何かを学んでいる姿を見ることがあります。これは以前の介護業界や施設運営では考えられなかった場面だと思います。

また、環境や物的な面では、やはり介護現場のIT化が進んでいます。映像・通信・センサーに関する技術や機器の精度が目覚ましく向上していますね。これにより、今までは見えなかった利用者の危険な行動をあらかじめスタッフが離れた場所で知ることができ、起こり得るアクシデントの防止に役立っています。あわせて介護のIT化は事故の未然防止に役立っているだけでなく、データを蓄積して特定行動のパターンを知ることができるのでスタッフの精神的な余裕が生まれることにも繋がっています。



4. 福祉機器とのかかわりについて

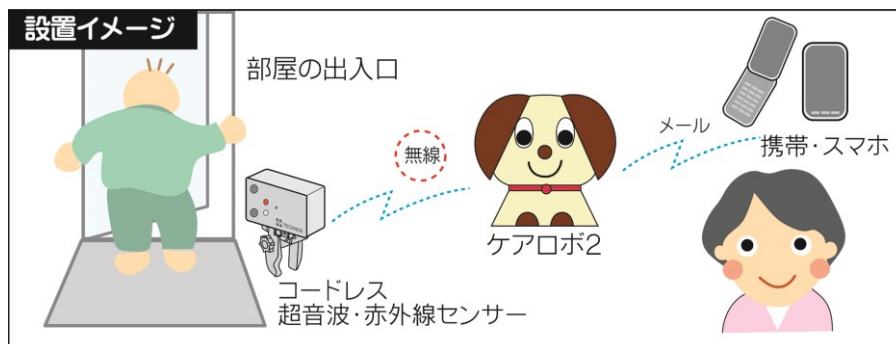
福祉用具があって助かった事（活用メリットなど）を教えてください。

私自身が経験したことで助かっていることは、施設・自宅で母親に「ケアロボ」を使用したことです。

「ケアロボ」と組み合わせたセンサーを活用した事によって、徘徊防止や介護の負担軽減を実感しました。母の様子がケアロボを通してメールで携帯電話に送られてきます。メールは私の他に妻・弟・妹の4名で受信できるようにケアロボで設定しましたので母の様子を共有することができます。また、母が今どのような状態なのかをこちら側から知ることができて必要だと思えば声掛けができる機能もあるので、徘徊して周りの方にお世話になるようなこともなくなりました。

今までは、私たち子どもは昼間の母親の様子が分からなかったので毎晩同じように「昼間は何をしていたの？」と聞いていた事でも、仕事中や外出先でも母の様子を知ることができるので、帰宅してから「良く眠れていたみたいだね」や「あれ美味しそうだったね」などと具体的な内容で会話が弾むようになりました。様子が見えることや何かあった場合に知らせてくれることで、介護者である私たちの精神的な負担が軽減されて本当に助かりました。

ケアロボは利用者の生活や尊厳を損なわないメリットがあり、本人や介護者にとって「やり過ぎない適度な介護レベル」を保てるのが今の介護の考え方に当てはまっていると思います。



5. これからの高齢者ケアについての展望や期待、夢を教えてください。

介護のIT化やロボット介護は今後も必ず進化していくと思います。

例えば、「人感センサー」・「離床センサー」・「カメラ機能」の一体化が進み、それぞれの機能がひとつになったモデルが増えてくることによって介護ロボットが更に便利になると考えていますし、開発するメーカーにもそれを望んでいます。(笑)

また、非力だったり介護技術が未熟なスタッフは、余計な力が入って自身の怪我に繋がる場合がありますが、現在のパワースーツがよりスマートに進化して介護者の無駄な動きや力を補ってくれるものに変化していくと予想しています。

スタッフも高齢化していく社会ではパワーアシスト機能やロボットの能力が更に必要になってくると思っていますし、そうなる介護職のイメージも変わるかもしれませんね。より良く変わっていく介護業界が楽しみです！

テクノス通信 Home (2018年7月発行) より